2027年３月期　第２四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年11月12日

上場会社名　　株式会社ファブリカホールディングス　　上場取引所　東
コード番号　　4193　　ＵＲＬ　https://www.fabrica-hd.co.jp/
代表者　　（役職名）代表取締役社長CEO　　（氏名）谷口　政人
問合せ先責任者　（役職名）取締役CFO　　（氏名）岩館　徹　　ＴＥＬ　03-5544-9102

半期報告書提出予定日　2026年11月12日　　配当支払開始予定日　2026年12月16日
決算補足説明資料作成の有無：無
決算説明会開催の有無　　：無

（百万円未満切捨て）

１．2027年３月期第２四半期（中間期）の連結業績（2026年４月１日～2026年９月30日）

（１）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年３月期中間期	5,583	11.6	618	2.5	611	0.8	393	3.9
2026年３月期中間期	5,004	12.8	603	6.5	607	6.7	378	△4.7

（注）包括利益　2027年３月期中間期　393百万円（4.1%）　2026年３月期中間期　378百万円（0.0%）

	１株当たり中間純利益	潜在株式調整後１株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2027年３月期中間期	76.43	―
2026年３月期中間期	70.45	―

	EBITDA	
	百万円	%
2027年３月期中間期	765	7.1
2026年３月期中間期	714	13.3

（注）１．EBITDA＝営業利益＋減価償却費＋のれん償却額
２．2026年３月期中間期の潜在株式調整後１株当たり中間純利益については、希薄化効果を有する潜在株式が存在しないため記載しておりません。
３．2026年３月期連結会計年度末において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っております。2026年３月期中間期の関連する各数値について、暫定的な会計処理の確定の内容を反映しております。

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年３月期中間期	5,619	3,897	68.8
2026年３月期	5,827	3,561	60.6

（参考）自己資本　2027年３月期中間期　3,867百万円　2026年３月期　3,529百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年３月期	―	19.00	―	19.00	38.00
2027年３月期	―	26.00			
2027年３月期（予想）			―	26.00	52.00

（注）１．直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

３．2027年３月期の連結業績予想（2026年４月１日～2027年３月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	11,630	10.1	1,400	14.8	1,400	14.2	900	35.2	175.06

（注）１．直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※　注記事項

（１）当中間期における連結範囲の重要な変更：有

新規　ー社　（社名）、除外　2社　（社名）Sparkle AI株式会社、オートレックス株式会社

（２）中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：無

② ①以外の会計方針の変更　：無

③ 会計上の見積りの変更　：無

④ 修正再表示　：無

（４）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年３月期中間期	5,475,400株	2026年３月期	5,475,400株
② 期末自己株式数	2027年３月期中間期	315,660株	2026年３月期	334,321株
③ 期中平均株式数（中間期）	2027年３月期中間期	5,148,114株	2026年３月期中間期	5,376,933株

※　第２四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料４ページ「１．経営成績等の概況（４）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（決算補足説明資料の入手方法）

決算説明資料はTDnetで同日開示しています。

○添付資料の目次

１．経営成績等の概況 …… 2
（１）当中間期の経営成績の概況 …… 2
（２）当中間期の財政状態の概況 …… 4
（３）当中間期のキャッシュ・フローの概況 …… 4
（４）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 4
２．中間連結財務諸表及び主な注記 …… 5
（１）中間連結貸借対照表 …… 5
（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 …… 7
中間連結損益計算書 …… 7
中間連結包括利益計算書 …… 8
（３）中間連結財務諸表に関する注記事項 …… 9
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 9
（継続企業の前提に関する注記） …… 9
（連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更に関する注記） …… 9
（セグメント情報等の注記） …… 10

１．経営成績等の概況

文中の将来に関する事項は、当中間連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

（１）当中間期の経営成績の概況

①　連結経営成績の概況

当中間連結会計期間においては、主力のビジネスコミュニケーション事業において堅調なSMS関連サービス需要を着実に取り込んだことに加え、オートモーティブプラットフォーム事業においても中間期売上高として過去最高を更新するなど増収基調が継続しました。損益面につきましても、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する中間純利益のいずれも前年同期を上回り、通期業績予想に対して概ね計画通りに進捗いたしました。

当中間連結会計期間における連結経営成績は以下のとおりです。

（百万円）

	2026年３月期 中間期	2027年３月期 中間期	増減率
連結経営成績			
売上高	5,004	5,583	11.6%
営業利益	603	618	2.5%
経常利益	607	611	0.8%
親会社株主に帰属する中間純利益	378	393	3.9%
経営指標			
EBITDA	714	765	7.1%
EBITDAマージン	14.3%	13.7%	－

※EBITDA＝営業利益＋減価償却費＋のれん償却額

当中間連結会計期間の売上高は5,583百万円（前年同期比11.6%増）、営業利益は618百万円（同2.5%増）、経常利益は611百万円（同0.8%増）となりました。親会社株主に帰属する中間純利益は393百万円（同3.9%増）となりました。

また、当中間連結会計期間におけるEBITDAは765百万円（同7.1%増）となり、基礎的な収益力は着実に拡大しております。

なお、当中間連結会計期間の実績は、2027年3月期通期連結業績予想に対し、売上高48.0%、営業利益44.2%、経常利益43.7%、親会社株主に帰属する中間純利益43.7%の進捗率となっており、概ね計画通りに進捗しております。

②　セグメント業績の概況

当中間連結会計期間より、従来の「AI事業」を「ビジネスコミュニケーション事業」に統合し、報告セグメントを「ビジネスコミュニケーション事業」「オートモーティブプラットフォーム事業」「オートサービス事業」の３区分に変更しております。以下の前年同期の数値は、変更後のセグメント区分に組み替えて比較しております。

セグメント別の経営成績につきましては以下のとおりです。

（百万円）

セグメント	2026年３月期 中間期	2027年３月期 中間期	増減率
売上高			
ビジネスコミュニケーション事業	3,127	3,706	18.5%
オートモーティブプラットフォーム事業	851	938	10.3%
オートサービス事業	1,025	938	△8.5%
セグメント利益（損失）			
ビジネスコミュニケーション事業	867	976	12.7%
オートモーティブプラットフォーム事業	132	141	7.0%
オートサービス事業	32	27	△16.6%

ビジネスコミュニケーション事業

2026年５月より法人向けコミュニケーションサービス群を新ブランド「Aurora X（オーロラエックス）」に刷新し、法人向けSMS配信サービス「Aurora SMS」、IVR自動応答サービス「Aurora IVR」、音声AIエージェント「Aurora AI Call」など、企業ごとに最適な顧客コミュニケーション基盤を提供しております。あわせて、EC事業者向けCRMシステム「アクションリンク」を展開し、企業とユーザーの接点強化を支援しております。

SMS関連サービスの需要が引き続き堅調に推移したことに加え、「Aurora IVR」や「Aurora AI Call」においても大手企業を中心に新規導入及び追加発注が進みました。この結果、「Aurora X」シリーズの累計契約社数は2026年９月末時点で7,808社（前年同期比＋990社）に達しました。また、「アクションリンク」においては、2026年９月にWEB接客機能の提供を開始したほか、IT製品比較サイトへの掲載拡大やセミナー開催の強化等により、新規顧客の獲得に取り組んでおります。

当中間連結会計期間のビジネスコミュニケーション事業の売上高は3,706百万円（前年同期比18.5%増）、セグメント利益は976百万円（同12.7%増）となり、リブランディングに係る広告宣伝費用をこなしながらも中間期として過去最高の売上高及び利益を更新しました。

（社）

	2026年３月期				2027年３月期	
	第１四半期	第２四半期	第３四半期	第４四半期	第１四半期	第２四半期
「Aurora X」シリーズ累計契約社数	6,582	6,818	7,084	7,331	7,556	7,808
前四半期比増加数	＋256	＋236	＋266	＋247	＋225	＋252

オートモーティブプラットフォーム事業

中古車販売業務を一元管理できるクラウド型の統合プラットフォーム「symphonyシリーズ」を中心に、自動車アフターマーケット事業者の業務効率化と事業成長を支援するソリューション群を提供するほか、自社メディア「CARPRIME」など自動車メディアの運営も行っております。

2025年８月にリリースした自動車整備業務支援システム「symphony整備請求」の導入が拡大したほか、2026年４月にリリースした業者間取引プラットフォーム「symphonyワンプラ」では、共有在庫が全国約10万台規模で推移する中、第２四半期より輸出事業者との連携を本格化したこと等により成約件数が大きく増加いたしました。これらの取り組みにより、カーソリューションサービスの有料アカウント数は2026年９月末時点で5,131アカウント（前年同期比＋367アカウント）に達しました。また、自動車メディアにおいては、中古車検索サイト「車選びドットコム」のYouTubeチャンネル登録者数が2026年８月に30万人を突破いたしました。

当中間連結会計期間のオートモーティブプラットフォーム事業の売上高は938百万円（同10.3%増）、セグメント利益は141百万円（同7.0%増）となり、売上高は中間期として過去最高を更新、セグメント利益も前年同期を上回って推移しております。

（アカウント）

	2026年３月期				2027年３月期	
	第１四半期	第２四半期	第３四半期	第４四半期	第１四半期	第２四半期
カーソリューションサービス有料アカウント数	4,719	4,764	4,809	4,966	5,053	5,131
前四半期比増加数	＋342	＋45	＋45	＋157	＋87	＋78

オートサービス事業

自動車事故で損害を受けた自動車の修理から、レッカー、代車貸出までワンストップでカバーするサービスの提供と、自動車整備・中古車販売事業を行っております。

中古車販売事業では、利益率の向上および車検顧客基盤の拡大を目的に、高級車両販売から在庫回転を重視した低価格帯車両中心の販売への転換を進めており、第１四半期において在庫入れ替えに伴い一時的に利益率が低下しました。一方で、車検・一般整備における価格改定効果やBP（鈑金塗装）事業における修理単価の上昇、低水準で推移していたレンタカー稼働率の改善等により、第２四半期のセグメント利益は23百万円と第１四半期から回復いたしました。

当中間連結会計期間のオートサービス事業の売上高は938百万円（同8.5%減）、セグメント利益は27百万円（同16.6%減）となりました。

（２）当中間期の財政状態の概況

（百万円）

	2026年３月期	2027年３月期 中間期	増減金額	増減率
流動資産	3,827	3,269	△557	△14.6%
固定資産	1,999	2,349	＋350	＋17.5%
資産合計	5,827	5,619	△207	△3.6%
流動負債	2,019	1,542	△477	△23.6%
固定負債	245	179	△66	△27.0%
負債合計	2,265	1,721	△543	△24.0%
純資産合計	3,561	3,897	＋336	＋9.4%

（資産）

資産合計は、オートサービス事業部における用地取得等により有形固定資産が210百万円、自社システムの開発等により無形固定資産が62百万円増加した一方、法人税及び消費税等の納付や配当金の支払い等により現金及び預金が567百万円減少したこと等により、前連結会計年度末に比べ207百万円減少し、5,619百万円となりました。

（負債）

負債合計は、法人税及び消費税等の納付や借入金の返済等により、前連結会計年度末に比べ543百万円減少し、1,721百万円となりました。

（純資産）

純資産合計は、利益剰余金が295百万円増加したこと等により、前連結会計年度末に比べ336百万円増加し、3,897百万円となり、自己資本比率は68.8%となりました。

（３）当中間期のキャッシュ・フローの概況

（百万円）

	2026年３月期 中間期	2027年３月期 中間期	増減金額
営業活動によるキャッシュ・フロー	400	263	△137
投資活動によるキャッシュ・フロー	△314	△519	△204
財務活動によるキャッシュ・フロー	△237	△194	＋42
現金及び現金同等物の増減額	△152	△450	△298
現金及び現金同等物の期末残高	2,473	2,003	△469

営業活動によるキャッシュ・フローは、263百万円の収入（前年同期は400百万円の収入）となりました。これは主に、法人税等の支払額355百万円があった一方、税金等調整前中間純利益が598百万円、減価償却費135百万円があったことによるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、519百万円の支出（前年同期は314百万円の支出）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出が292百万円、無形固定資産の取得による支出が136百万円あったことによるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、194百万円の支出（前年同期は237百万円の支出）となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出85百万円、配当金の支払額97百万円があったことによるものであります。

（４）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想については、2026年５月14日の「2026年３月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

２．中間連結財務諸表及び主な注記

（１）中間連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 （2026年３月31日）	当中間連結会計期間 （2026年９月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,454,312	1,886,527
売掛金	1,113,307	1,066,277
商品	84,431	39,229
仕掛品	1,875	2,163
貯蔵品	3,018	2,621
その他	176,348	285,664
貸倒引当金	△5,928	△12,778
流動資産合計	3,827,366	3,269,704
固定資産		
有形固定資産	725,256	935,766
無形固定資産		
のれん	83,735	72,421
顧客関連資産	206,645	199,833
その他	420,776	501,545
無形固定資産合計	711,157	773,799
投資その他の資産		
投資有価証券	306,180	355,152
その他	335,586	362,752
貸倒引当金	△78,427	△77,576
投資その他の資産合計	563,339	640,328
固定資産合計	1,999,753	2,349,894
資産合計	5,827,120	5,619,599

（単位：千円）

	前連結会計年度 （2026年３月31日）	当中間連結会計期間 （2026年９月30日）
負債の部		
流動負債		
買掛金	822,092	619,104
１年内返済予定の長期借入金	50,542	－
未払法人税等	359,220	178,096
ポイント引当金	140,277	150,263
賞与引当金	39,941	32,830
その他	607,342	561,804
流動負債合計	2,019,417	1,542,099
固定負債		
長期借入金	35,026	－
資産除去債務	68,554	68,881
その他	142,283	110,623
固定負債合計	245,864	179,505
負債合計	2,265,281	1,721,604
純資産の部		
株主資本		
資本金	657,660	657,660
資本剰余金	602,168	607,899
利益剰余金	2,926,760	3,222,573
自己株式	△659,119	△622,343
株主資本合計	3,527,470	3,865,789
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,052	2,113
その他の包括利益累計額合計	2,052	2,113
新株予約権	32,316	30,091
純資産合計	3,561,838	3,897,994
負債純資産合計	5,827,120	5,619,599

（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

（中間連結損益計算書）

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
売上高	5,004,699	5,583,419
売上原価	2,730,964	3,072,995
売上総利益	2,273,734	2,510,423
販売費及び一般管理費	1,670,439	1,891,818
営業利益	603,294	618,605
営業外収益		
受取利息	2,120	2,492
受取配当金	10	10
受取家賃	3,610	3,170
受取保険金	4,574	4,031
その他	3,009	1,838
営業外収益合計	13,325	11,544
営業外費用		
支払利息	616	850
支払手数料	1,010	－
賃貸収入原価	1,125	938
投資事業組合運用損	4,415	8,046
車両事故損失	1,241	5,479
その他	1,163	2,848
営業外費用合計	9,574	18,163
経常利益	607,046	611,986
特別利益		
投資有価証券売却益	27,458	－
特別利益合計	27,458	－
特別損失		
減損損失	260	－
不正アクセス対応費用	－	13,129
特別損失合計	260	13,129
税金等調整前中間純利益	634,244	598,857
法人税、住民税及び事業税	283,739	175,006
法人税等調整額	△28,310	30,357
法人税等合計	255,429	205,364
中間純利益	378,815	393,493
親会社株主に帰属する中間純利益	378,815	393,493

（中間連結包括利益計算書）

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
中間純利益	378,815	393,493
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△721	60
その他の包括利益合計	△721	60
中間包括利益	378,094	393,553
（内訳）		
親会社株主に係る中間包括利益	378,094	393,553

（３）中間連結財務諸表に関する注記事項

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更に関する注記）

当中間連結会計期間において、当社の連結子会社であったSparkle AI株式会社は株式会社メディア4uを、オートレックス株式会社は株式会社ファブリカコミュニケーションズをそれぞれ存続会社とする吸収合併（効力発生日：2026年４月１日）により消滅したため、連結の範囲から除外しております。

（セグメント情報等の注記）

【セグメント情報】

Ⅰ　前中間連結会計期間（自　2025年４月１日　至　2025年９月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：千円）

	報告セグメント				調整額（注）２	中間連結損益計算書計上額（注）３
	ビジネスコミュニケーション事業	オートモーティブプラットフォーム事業	オートサービス事業	計		
売上高						
顧客との契約から生じる収益	3,127,935	851,317	777,552	4,756,806	－	4,756,806
その他の収益	－	－	247,892	247,892	－	247,892
外部顧客への売上高	3,127,935	851,317	1,025,445	5,004,699	－	5,004,699
セグメント間の内部売上高又は振替高	12,362	－	－	12,362	△12,362	－
計	3,140,298	851,317	1,025,445	5,017,061	△12,362	5,004,699
セグメント利益	867,224	132,570	32,586	1,032,381	△429,086	603,294

（注）１．セグメント利益の調整額△429,086千円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及びセグメント間取引消去となります。

２．セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（のれんの金額の重要な変動）

「オートモーティブプラットフォーム事業」セグメントにおいて、前中間連結会計期間に行われたオートレックス株式会社との企業結合について、取得原価の配分が完了していなかったため、のれんの金額は暫定的に算出された金額でありましたが、前連結会計年度末に取得原価の配分が完了し、暫定的な会計処理が確定したため、のれんの金額を修正しております。

この結果、のれん89,699千円を計上しております。

Ⅱ　当中間連結会計期間（自　2026年４月１日　至　2026年９月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：千円）

	報告セグメント				調整額（注）２	中間連結損益計算書計上額（注）３
	ビジネスコミュニケーション事業	オートモーティブプラットフォーム事業	オートサービス事業	計		
売上高						
顧客との契約から生じる収益	3,706,634	938,736	699,253	5,344,624	－	5,344,624
その他の収益	－	－	238,795	238,795	－	238,795
外部顧客への売上高	3,706,634	938,736	938,048	5,583,419	－	5,583,419
セグメント間の内部売上高又は振替高	5,102	－	－	5,102	△5,102	－
計	3,711,737	938,736	938,048	5,588,522	△5,102	5,583,419
セグメント利益	976,940	141,839	27,180	1,145,959	△527,354	618,605

（注）１．セグメント利益の調整額△527,354千円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及びセグメント間取引消去となります。

２．セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントの変更等に関する事項

(報告セグメントの変更)

当中間連結会計期間において、以下のとおり報告セグメントを変更しております。

当社グループは、2026年２月13日開示の「連結子会社間の吸収合併に関するお知らせ」にてお知らせのとおり、2026年４月１日付けで連結子会社間の吸収合併を行い、これまでAI事業を担っておりました当社子会社のSparkle AI株式会社を、同じく当社子会社の株式会社メディア４uへと統合いたしました。

当該吸収合併は、AI技術の開発機能と営業・マーケティング機能の一体化を通じて、AIサービスの市場投入スピードの加速および収益機会の拡大を図ることを目的としております。

当該吸収合併に伴い、AI事業はビジネスコミュニケーション事業の一部として一体的に運営されることとなるため、報告セグメントとしての区分を廃止し、ビジネスコミュニケーション事業に統合するものであります。

また、従来AI事業セグメントに内包されていた研究開発機能については当社へ移管し、特定の報告セグメントに属さない独立した機能として位置付け、グループ全体の技術基盤の強化を図るとともに、サービス開発およびプロダクト改善の加速を通じて競争力の向上を目指してまいります。

なお、前中間連結会計期間のセグメント情報は、上記変更後の計算方法によって作成したものを開示しております。